

平成26年度

病虫害発生予察注意報(第5号)

平成27年 3月13日

神奈川県農業技術センター

病虫害名：イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

作物名：水稲

1 発生地域 県内全域

2 発生量 多

3 注意報発令の根拠

- (1)2015年1月上旬から3月上旬に県内16地点の水田畦畔からヒメトビウンカ越冬世代幼虫を採集し、イネ縞葉枯病ウイルス(以下「RSV」)の保毒虫率を簡易ELISA法により調査した結果、全調査地点でRSV保毒虫が確認され、平均保毒虫率(定点の平均値)は6.7%であった(図1)。
- (2)また、採集地点別では16地点のうち14地点において2014年に比べ保毒虫率が上昇した(表1)。
- (3)2015年1月7日から3月2日に県内17地点の水田内でヒメトビウンカの越冬世代虫密度を吹き出し法により調査した結果、平均越冬虫密度(定点の平均値)は44.4頭/9㎡であり、平年比「並」であった(表1)。
- (4)2014年はRSV平均保毒虫率4.9%、ヒメトビウンカの平均越冬世代虫密度平年比「並」で、7～9月の水稲作本田におけるイネ縞葉枯病発生度は、平年比「多」であった。

4 防除対策および防除上の注意事項

- (1)水稲初期生育における媒介虫の水田飛来によるRSV感染と水田内での感染拡大を抑制するため、ウンカ類に効果のある育苗箱施薬剤を施用する。なお、2015年のツマグロヨコバイ越冬密度(260.4頭/9㎡)は平年(61.2頭/9㎡)に比べ「多」であるため、育苗箱施薬剤の選択に際しては、ウンカ類およびツマグロヨコバイに効果の高い薬剤を優先する。
- (2)田植前および作期をとおして、RSVの寄主植物やウンカ類生息場所となり得る水田周辺の雑草の除草管理を徹底する。
- (3)本田防除は、育苗箱施薬剤の効果が低下する時期に、農業技術センターの病虫害情報を参考にヒメトビウンカの発生状況を把握し適期に行う。

5 防除薬剤

農薬使用の際は、適用作物、使用時期、総使用回数をラベルの表示により必ず確認すること。

【ヒメトビウンカに対して効果が期待できる育苗箱施薬剤 例】（2015年3月10日現在）

薬剤名	系統	使用時期	使用回数	使用量	ツマグロ適用
アドマイヤーCR箱粒剤	4A	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱	あり
グランドオンコル粒剤	1A	移植3日前～移植当日	1回	50g/箱	あり
プリンス粒剤	2B	は種時(覆土前)～移植当日	1回	50g/箱	なし

【ヒメトビウンカに対して効果が期待できる本田施薬剤 例】（2015年3月10日現在）

薬剤名	系統	使用時期	使用回数	使用量	ツマグロ適用
アルバリンまたはスタークル粒剤	4A	収穫7日前まで	3回	3kg/10a	あり
トレボン粒剤	3A	収穫21日前まで	3回	2～3kg/10a	あり

(注)表中の「系統」はIRACの作用機構分類サブグループ名を記載。異なる記号は作用機構が異なることを示す。

6 主要データ

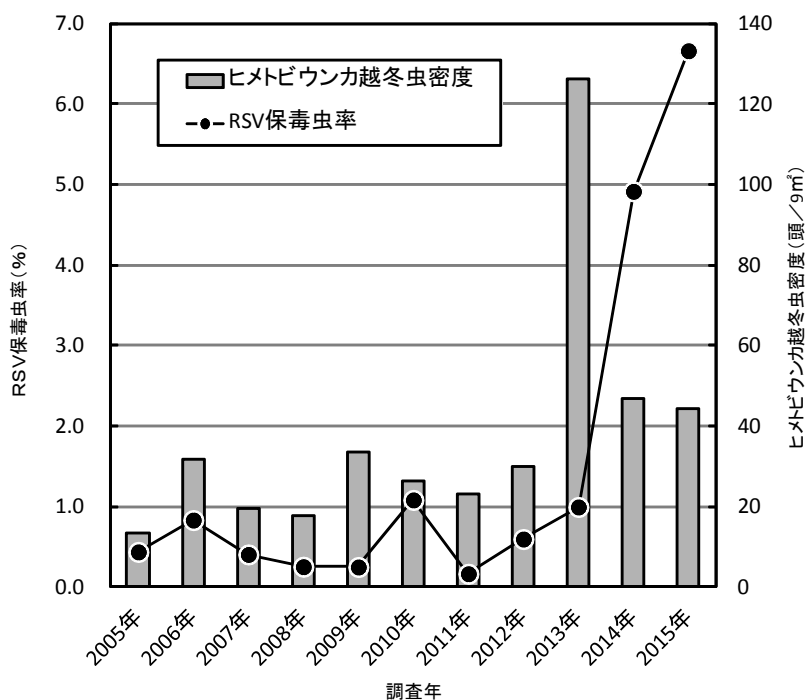


図1 ヒメトビウンカ越冬虫におけるRSV保毒虫率と越冬虫密度の推移

- ・ 数値は定点の平均値
- ・ 各年のRSV保毒虫率検定法
2005～2014年：抗体感作ラテックス法
2015年：簡易ELISA法(柴ら(2013)関東東山病虫研報、60:91-93)および抗体感作ラテックス法
- ・ 簡易ELISA法による判定方法
吸光光度計数値「405nm吸光値－490nm吸光値」が陰性コントロールの3倍以上を示した検体を「陽性」とした

表1 採集地点別ヒメトビウンカ越冬虫のRSV保毒虫率と密度

採集地点 ^z	保毒虫率 (%) ^y		密度(頭/9m ²) ^x		
	2015年	2014年	2015年	2014年	平年
藤沢 大庭 ○△	8.6	6.0	2	14	12.5
海老名 本郷 ○△	6.7	3.3	1	26	15.6
相模原 当麻 ○△	5.8	3.3	19	14	24.6
伊勢原 下谷 ○△	7.5	6.7	109	31	42.4
伊勢原 串橋 ○△	9.2	2.7	174	238	162.9
厚木 飯山 ○△	5.8	2.7	45	72	71.5
小田原 桑原 ○△w	5.0	3.3	7	7	21.7
横浜 北八朔 △	4.2	5.3	6	11	4.6
座間 新田宿	10.8	5.3	6	17	-
平塚 広川 △	9.2	6.0	39	20	25.8
秦野 下大槻	9.2	4.7	36	43	-
厚木 三田	5.8	1.3	9	6	-
小田原 栢山 △	4.2	4.0	28	51	15.7
南足柄 竹松/千津島 △	4.2	1.3	5	77	38.3
開成 吉田島 △v	5.8	4.0	2	23	12.8
厚木 戸田 △	-	-	14	43	34.3
平塚 寺田縄 ○△u	4.7	11.3	171	28	32.9
○調査地点平均	6.7	4.9	-	-	-
△調査地点平均 (対平年比)	-	-	44.4 (並)	46.8 (並)	36.8
全調査地点平均	6.7	4.5	39.6	42.4	-
(参考) 縞葉枯病 発生度(9月) (対平年比)	-	8.3 (多)			

z) ○の記号は保毒虫率調査定点、△の記号は密度調査定点を示す。また、無印は2011年以降、保毒虫率または密度調査を実施している地点。

y) 寺田縄を除き2014年まで抗体感作ラテックス法(n=150)、2015年簡易ELISA法(n=120)ただし、藤沢市大庭は2010年：n=125、2012年：n=142、2015年：n=93

x) 9m²(30cm×30m)の吹き出し調査

w) 2009年まで鬼柳で調査

v) 密度は2011年まで金井島で調査

u) 生産環境部調査

保毒虫率は、すべて抗体感作ラテックス法(n=150)による検定

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>